

演題

キリシタン版・対訳辞書群及び
洋学資料・対訳辞書群における
聾啞関連語彙

末森明夫

1. キリシタン版

16世紀後半から17世紀前半、
イエズス会やドミニコ会の宣教師・修道士たちが
日本に来て、布教をしながら
対訳辞書や翻訳本を出した。
これらを「キリシタン版」と総称する。



3. 『羅葡日辞書』の聾啞関連語彙

『羅葡日辞書』には

[mimixij] 〈耳癢〉

Surdus, a, um. Lus. Su. do. Iap. Tcunbo, mi
mi xijtaru mono. ¶ Item, Col ſi cujo chei

[tçunbo] 〈聾〉

[riöquai] 〈聾瞶〉

Sürdiras, ati . Lus. Surdeza. Iap. Riöquai.

[voxi] 〈啞〉

Mutus, i. Lus. Mudo. Iap. Voxi.

[yeyzu] 〈言えず〉

の計**5**語が載録されている。

4. 『日葡辞書』の聾啞関連語彙

『日葡辞書』には

[mimixij] 〈耳癢〉

[mimitçubure] 〈耳潰れ〉

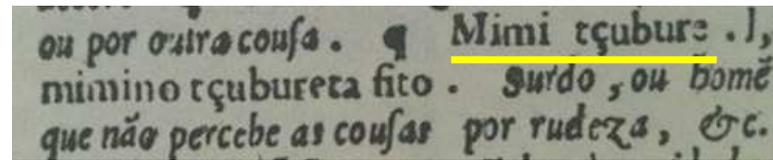
[nireô] 〈耳聾〉

[reôquai] 〈聾聵〉

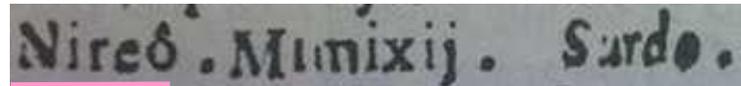
[voxi] 〈啞〉

[afu] 〈瘖子〉

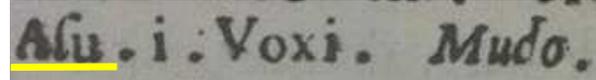
[reôa] 〈聾啞〉



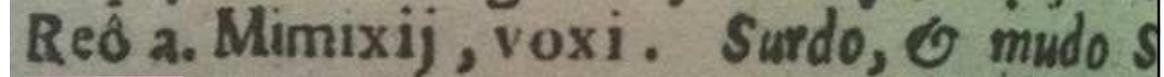
ou por outra causa. q Mimi tçubure.),
mimino tçubureta fito. Surdo, ou homẽ
que não percebe as cousas por rudeza, &c.



Nireô. Mimixij. Surdo.



Afú. i. Voxi. Mudo.



Reôa. Mimixij, voxi. Surdo, & mudo S

の計**7**語が載録されている。

5. 耳聾

中世後期から近世初期の間は
「耳聾」は「にろう」と読まれていたことがわかる。
現在、「耳聾」は「じろう」と読む。
すなわち、「**呉音**」から「**漢音**」への転化が起きている。

『日葡辞書』（1603）

（呉音）

に ろう

耳聾



現在

（漢音）

じ ろう

耳聾

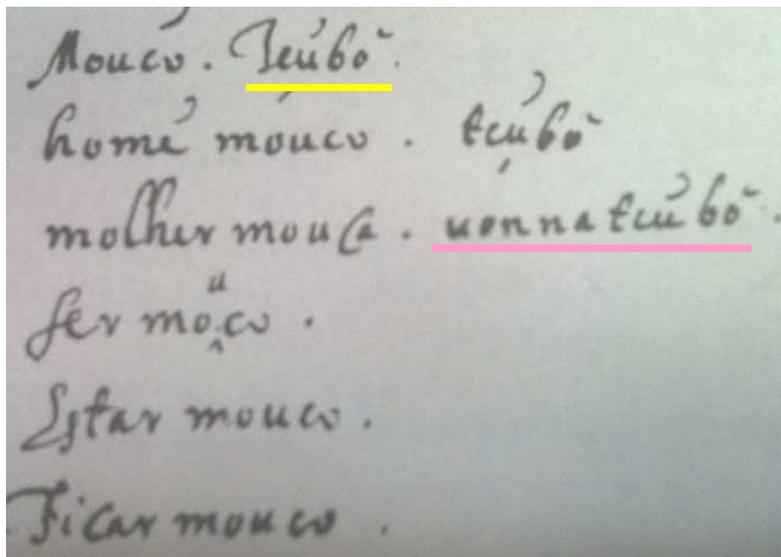
6. 『葡日辞書』の聾啞関連語彙

『葡日辞書』には

[tçũbõ] 〈聾〉

[uonnatçũbõ] 〈女聾〉

の計**2**語が載録されている。



7. 『西日辞書』の聾啞関連語彙

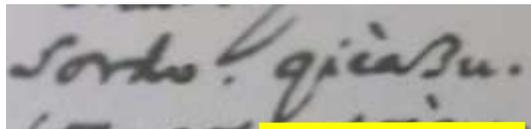
『西日辞書』には

[qicazu] 〈聞かず〉

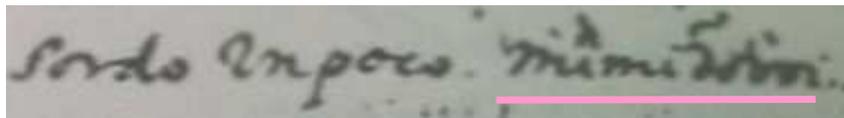
[mimidovoi] 〈耳遠い〉

[vbuxi] 〈啞〉

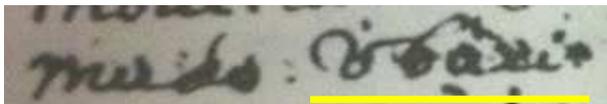
の計**3**語が載録されている。



Sordo qicazu.



Sordo en pos. mimidovoi.



Sordo vbuxi.

8. 『羅西日辞書』の聾啞関連語彙

『羅西日辞書』には

[qicazu] 〈聾〉

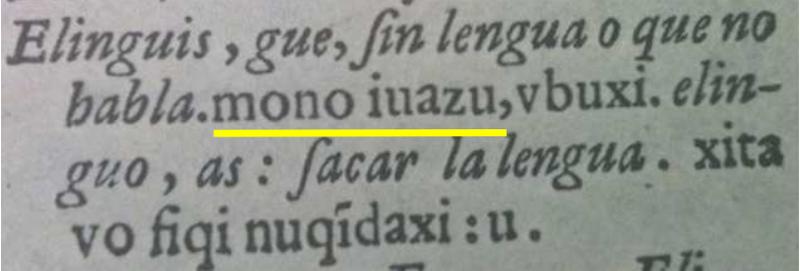
[mimidovoi] 〈耳遠い〉

[vbuxi] 〈啞〉

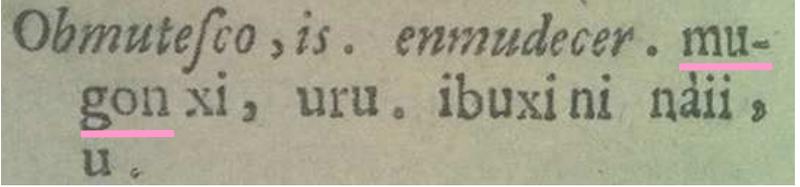
[monoiuazu] 〈物言わず〉

[mugon] 〈無言〉

の計**5**語が載録されている。



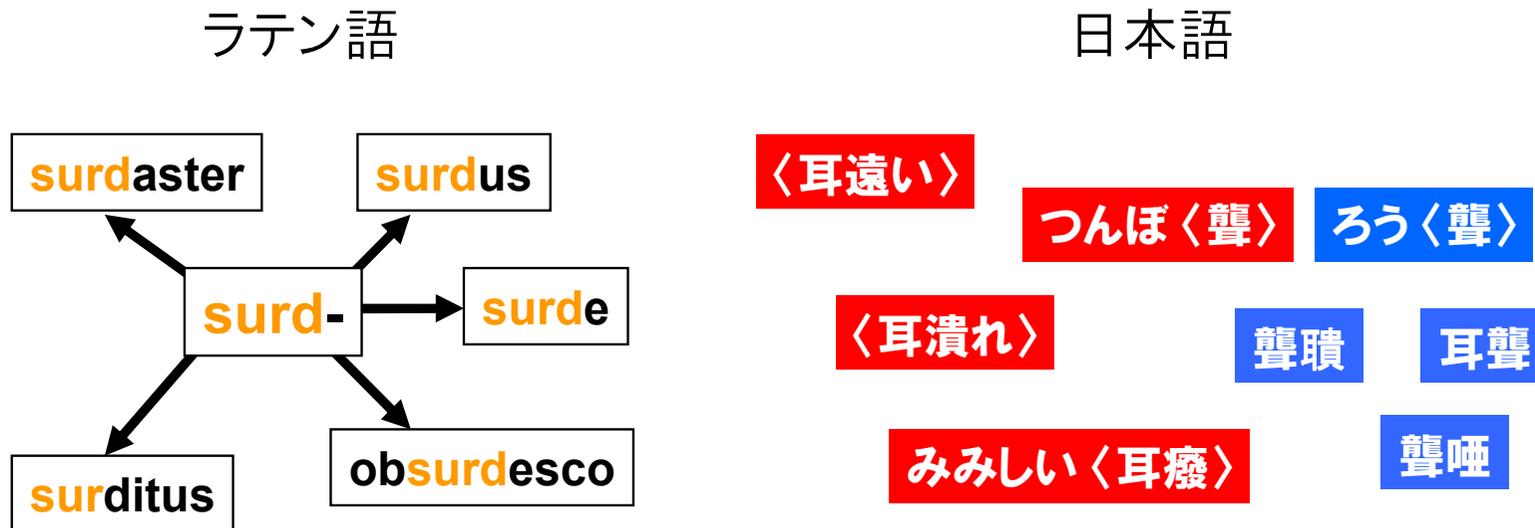
*Elinguis, gue, sin lengua o que no
habla. mono iuazu, vbuxi. elin-
guo, as : sacar la lengua. xita
vo fiqi nuqídaxi : u.*



*Obmutesco, is. enmudecer. mu-
gon xi, uru. ibuxi ni nãii,
u.*

8. 中世・近世の日本語における聾啞関連語彙

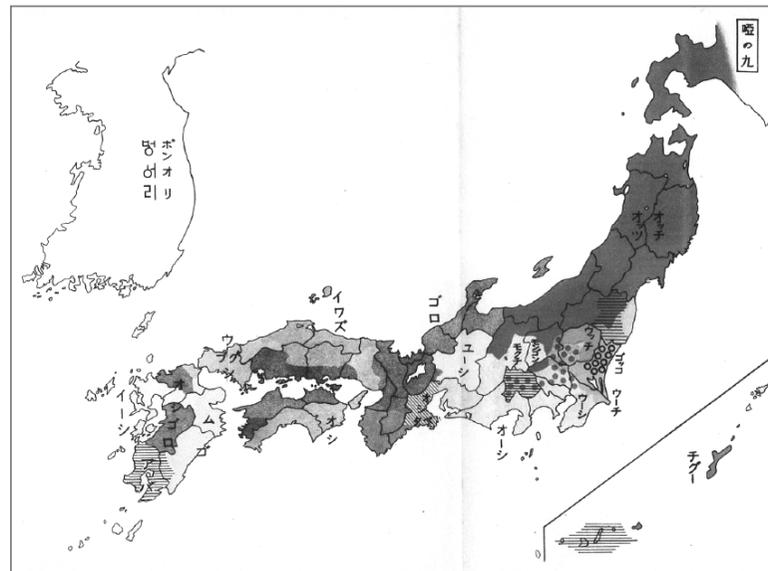
中世日本語では「**大和語彙**」や「**漢文訓読語彙**」が混在し、ラテン語、中世ポルトガル語、中世スペイン語のような印欧語とは異なる多様性がある。



10. 方言地図

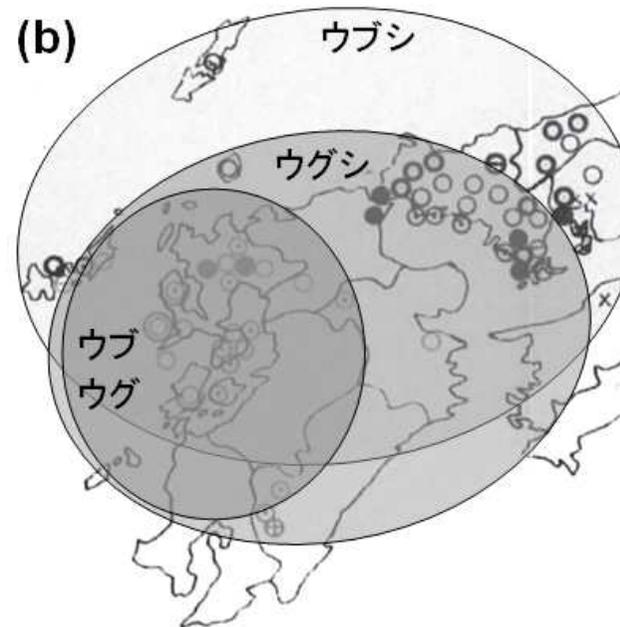
**「聾」「啞」方言地図が存在し、
昭和時代初期における
様々な「聾」「啞」関連方言が窺える。**

岡山準(1935)『東京聾啞学校紀要第二輯』



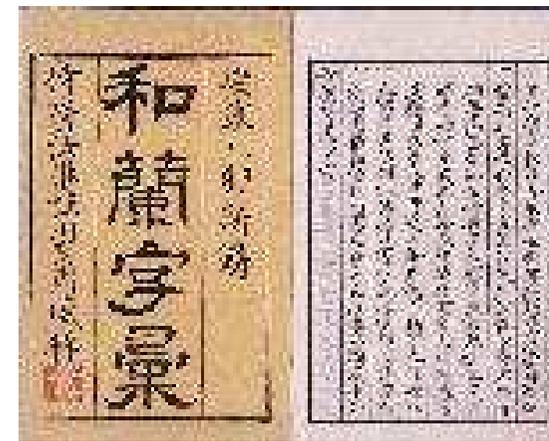
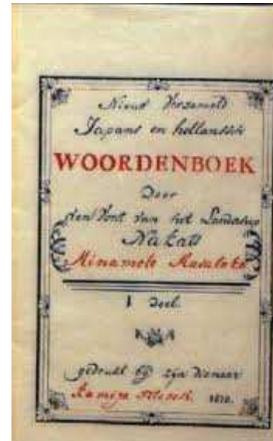
11. ウブシ (vbuxi)

『西日辞書』や『羅西日辞書』に載録されている
[vbuxi]〈唾〉は九州地方の方言であった可能性が
方言地図より窺える。



12. 洋学資料 対訳辞書群

江戸時代中期より蘭和・和蘭辞書が編まれ始め、
幕末期より明治時代初期においては
様々な蘭和・和蘭辞書群ないし
英和・和英辞書群が編まれた。



13. 『蘭語訳撰』の聾啞関連語彙

『蘭語訳撰』(1810)に
載録されている聾啞関連語彙は
「聾(ツンボ)」と「啞子(ヲシ)」
の2語のみである。



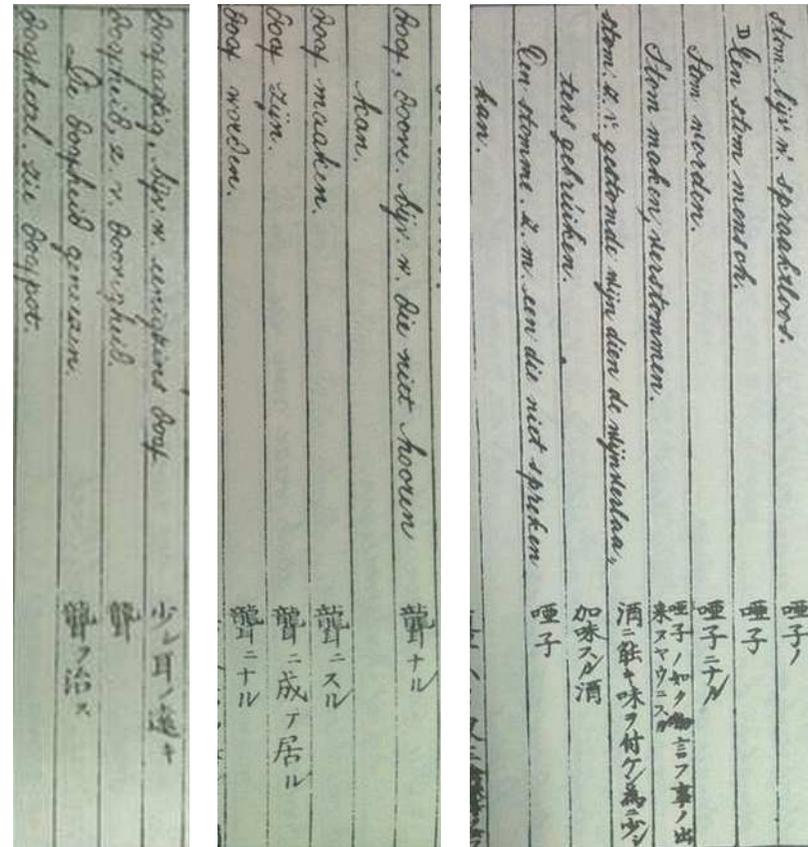
14. 『メゾハースト英和・和英辞書』の聾啞関連語彙

『メゾハースト英和・和英辞書』（1830）に
載録されている聾啞関連語彙は
「ツンボ」と「ヲシ」
の2語のみである。

Dumbness	Tsoon-bo	聾啞
聾啞	O-si	Drum

15. 『和蘭字彙』の聾啞関連語彙

『和蘭字彙』（1855）に載録されている
聾啞関連語彙は
「聾（ツンボ）」及び派生語、
「啞子（ヲシ）」及び派生語、
「少し耳の遠き」
の計**14**語句になる。



16. まとめ

キリシタン版の対訳辞書群の聾啞関連語彙は、九州地方の方言も含むなど多岐に渡る。しかし、洋学資料の対訳辞書群の聾啞関連語彙は限定的である。

キリシタン版対訳辞書群は日本語学習者を対象に編まれたものが多く、口語を含む様々な日本語の単語の載録が図られたものと考えられる。

洋学資料対訳辞書群は蘭語や英語の学習者を対象に編まれたものが多く、蘭語や英語の載録に重心が置かれたものと考えられる。